

東郷町の地域課題についての検討（令和 6 年度第 2 回東郷町地域ケア推進会議）

「地域資源や制度の周知について

～どのようしたら地域資源や制度について効果的に周知ができるかを考える～

の意見集約（抜粋）

1 周知のターゲットについて

「いつ」「どこで」「誰に」「何を」「なぜ」周知がしたいのかをよく考えて、ターゲットを絞り、ターゲットに見合った周知方法を検討することが大切。欲張り過ぎず、ターゲットを絞り込む。

周知内容：「介護保険制度に関すること」

(1) 住民

ア 特に親の介護が始まる時期の 40 代、50 代に情報を提供したい

- ・世間で話題性のある「断捨離」や「終活」に絡めて周知
- ・短編動画など制作し、分かりやすく手軽に伝えられるとよい
- ・介護保険制度について相談できる窓口を分かりやすくまとめる
- ・QR コードで必要な情報に飛べるように保存版チラシを作成する
- ・冊子等、情報が多すぎて見ないので、情報量についても精査・検討が必要

イ 孫世代を活用する

- ・学校で学ぶ場を設定する。（例えば認知症サポーター養成講座など）学校で学んだことを、家に帰って親や祖父母に伝えてもらうような仕掛けづくり。
- ・孫世代が得意とするタブレットやスマートフォンで調べる方法を親や祖父母に伝えたり、孫世代がタブレットやスマートフォンを活用して親や祖父母に伝える。

(2) 医療・介護専門職

医療や介護の専門職でも知らないことは多くあるため、まずは医療・介護専門職が知るところから始めることが大切。

- ・多職種ミーティング及びカンファレンスなど、顔の見える関係性で情報交換する
- ・各種研修会へ参加してもらう。魅力ある研修会を開催や、研修について周知
- ・多職種連携ツール「電子@連絡帳」を積極的に活用する

2 周知の方法について

(1) チラシ等の媒体の作成

- ・欲しい情報を一覧でまとめたチラシ「保存版」の作成。介護分野に限らず、障がい、子育て等の情報をまとめる。QR コードから必要な情報へアクセスできるような工夫を凝らす。

- ・短編動画等を制作し、QRコードに落とし込み発信する。また既存の動画等（例えば、とうごう体操や介護予防体操が現時点で該当）をQRコードに落とし込み、周知を行う。

- ・冊子等、情報が多すぎて見ないので、情報量についても精査・検討が必要。概要版等の作成を検討。

(2) チラシ等の配布

- ・広報誌への記事の掲載や、広報誌との同時配布
- ・東郷町公式LINEを活用したチラシの配信
- ・東郷町公式ホームページへのチラシの掲載
- ・町や地域包括支援センターを始め、医療・介護専門職、民生委員等からのチラシについて口頭で説明をしながらの直接配布
- ・老人クラブ、サロン、町主催の一般介護予防教室等でチラシについて口頭で説明しながらの直接配布
- ・スーパー等、民間企業と連携をしたチラシの配布（例えばレジ終了時にチラシを店員さんから手渡し等）
- ・お祭りイベントの実施時に参加者へチラシを配布

(3) 人と人との繋がり（口コミ）

- ・回覧板、ホームページ、広報等の一方的な情報発信は「見ていない」ことを前提とし、口を酸っぱくして繰り返し伝え続けること。
- ・直接声をかけて伝え、1人を2人に…と地道な努力で積み重ねていく。

3 周知についての今後の方向性

(1) 分かりやすいチラシ等の媒体の作成

ア 既存のチラシ（一般介護予防教室、認知症カフェ、地域包括支援センターの周知啓発チラシ等）に、該当するホームページ等の詳細な情報にアクセスできるようにQRコードを作成し掲載する。文字が多くならないように、掲載情報についても精査する。

イ QRコードをうまく活用し、欲しい情報を一覧にまとめたチラシの作成の検討を進める。まずは介護保険制度関連でまとめた後、介護分野のみならず、障がい、子育て等の情報も一括してまとめる体制を検討する。冊子等、情報が多すぎるという意見を踏まえ、欲しい情報に段階を追ってたどり着けるような形での作成を検討する。

(2) チラシ等の配布について

ア 口頭で説明した上での、直接配布

老人クラブ、サロン、町主催の一般介護予防教室等の人が集まる機会や地域包括支援センターや民生委員等の個別訪問の機会を得て、チラシ等について丁寧な説明を

行い配布する。

イ 民間企業と協働した配布

高齢者等にやさしいお店に登録済みの店舗をはじめとした民間企業にチラシの設置及び配布依頼をする。チラシの設置及び配布依頼をする企業に対して、チラシの設置及び配布の依頼をするのみではなく、内容について理解してもらえよう説明をしたうえで依頼する。

ウ 情報発信の機会を活用した配布

広報、ホームページを始め、東郷町公式 LINE を活用したチラシ等の配布を継続。

エ イベント等での配布

例えば文化産業まつり等、人が多く集まる機会にチラシを配布する。地域のイベント（盆踊りや秋祭り等）の開催情報など掴みながら、チラシ配布等について相談する。

(3) その他

ア 子ども世代、孫世代を活用した周知

学校での学び（例えば認知症キッズサポーター養成講座、福祉実践教室等）を、家に帰って親や祖父母に学んだ内容を伝えてもらうような仕掛けづくり。

イ 医療・介護専門職が正しい情報を得て発信する

医療・介護の専門職でも知らないことは多くあるため、まずは医療・介護専門職が正しい情報を得ることができるよう、多職種ミーティング及びカンファレンスや、各種研修会へ参加した機会を捉えて情報提供を行う。また日頃から、多職種連携ツール「電子@連絡帳」を積極的に活用し情報の発信を行う。